



**S H U N K E N    2 0 0 8 - 0 7    3 6 - 0 2**

**駿建**

2008年夏期号 Vol.36 No.2 日本大学工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

# 駿河台校舎・再生5号館

## 駿河台校舎5号館改修検討委員会



改修後5号館外観

### 5号館の「再生」計画と建築家「宮川英二」について

今村雅樹

このたび駿河台キャンパスでは1号館の建替えに続き、5号館の再生計画が終わり、駿河台キャンパスの中では先にも後にも唯一単独学科の棟「建築学科棟」となった。本来は駿河台キャンパス全体のグランドマスタープランが存在してから、ディテールの計画が成立するのであるが、こここのところがどうも理工学部側の全体計画がはっきりしておらず、今後はキャンパス計画の手法を建築学科として再教育していかなければならないと考えている。

この5号館再生計画は、私が「5号館改修検討委員会」委員として入ったときには既に複雑な様相を呈していた。まずは、耐震補強工事として出発したプロジェクトを清水建設が仕事を受けて進めていたところ、建築調査の途中でアスベストが存在することが判明し追加撤去工事としての建築リニューアルが付加されたという経緯があった。設計はそのまま清水建設の方で行うこととなったが、我々大学の委員会は設計監理者としてではなく、あくまで発注者側のご意見番として存在する立場となり、悶々とする役割で現場に関わることとなった。

我々が慣れ親しんだ「5号館」は、日本大学名誉教授にもなられた私の恩師：宮川英二（1915～1989）の設計によるもので、竣工の年1959年には雑誌「新建築」「建築文化」11月号などに掲載され注目の作品であった。

竣工当時の年には、コルビュジエの上野の西洋美術館や丹下健三の香川県庁舎などのモダニズム建築が立て続けに発表された時代でもあった。そしてこの5号館も、

ブルータリズムのアロマを漂わせる荒々しいコンクリートの打放し仕上げの躯体フレーム（構造設計：齋藤謙次）や壁やエレメントを構成するテラコッタタイルやプレキャストコンクリートの手すりやポツ窓やレリーフ（ピロティレリーフ：小野襄）、メンテナンスに対応したアルミサッシ開口部、内部空間を間仕切るカラフルな「システム収納家具」、そして基礎構造の曲版シェル基礎（構造設計：加藤渉）など、当時の日本大学の粋を集めてデザインされたまさに工業化と芸術性の融合という同時代の雰囲気そのまま表現した建築であった。

私は、宮川研究室に入って大学院を修了したのが'79年なので、そのとき既に20年経過した5号館建築で学んでいたことになる。当時研究室では「水曜会」という宮川先生を囲んでのゼミがあり、デザインのことをいろいろと尋ね聞いた記憶がある。GパンにTシャツ姿の貧乏学生だった私に、フランコ・アルビーニやスカルパ、ヤコブセンなどについて熱く語られる先生のファッションはというと、黒縁の眼鏡に蝶ネクタイ（これはコル派においては制服に近い！）であったから、建築家にとって「かたち」や「雰囲気」の重要性は否めないと悟ったのもこの頃で、良い思い出を育んだ空間である。

さて、今年の大学院生たちのデザインの私のユニット課題では「DOCOMOMO 建築の『再生』の解釈をデザインせよ！」という難題を出しているが、いざそのようなスタイリッシュな恩師の設計した建築の「再生」となると、これは敬意を払うだけに留まらず「宮川先生だったらいったい『再生』をどう解釈しますか？」と聞いた



改修前5号館本郷通り



使用されていたテラコッタタイルブロック



オリジナルのテラコッタを再生利用した壁



ガラスのスキンの中に納まるトグル機構



Low-e ガラスのペアガラスが設置され化粧直しが終わったファサード

くなるのが本音である。冒頭の複雑な状況の中で、我々建築学科教員で組織した「5号館改修検討委員会」は、ミッドセンチュリーの革新的な技術を集めたこの建築を、建設会社設計部に宮川先生になりかわり、設計の翻訳者としての役目を果たさなければならなかった。

私の当初の計画では、既にグレーの塗装で塗られてしまっていた外観を本来のブルータリズムのRC打放し仕上げに戻し、機能的にはエレベーターを増設し、地下から9階まですべてを建築学科施設として利用できるようにし、1階のカフェデザインも1号館カフェ（こちらは筆者デザイン）に負けないようなインテリアや家具をデザインしたかった！のだが、しかしながら短い「工期」と契約上の「コスト」が打放し仕上げ再生には無理で、耐震改修工事枠内の「工期」「コスト」という条件下ではエレベーター増設も不可能、との判断の中で、できるだけ宮川先生のデザインを解釈発展させながら進めていったつもりである。果たして「再生5号館」に宮川先生は何点つけてくださるであろう？（いまむらまさき・教授）

#### 建築概要

##### ■竣工時

設計	建築	日本大学理工学部建築学科宮川研究室(宮川英二)
	構造	日本大学理工学部建築学科齋藤研究室(齋藤謙次)
	曲板構造	日本大学理工学部建築学科加藤研究室(加藤 渉)
共同監理		日本大学本部営繕課
施工		清水建設
竣工		1959年9月

##### ■改修時

設計	清水建設一級建築士事務所
監修	駿河台校舎5号館改修検討委員会
施工	清水建設
監理	日本大学本部管財部
竣工	2008年2月

建築面積	629.45m <sup>2</sup>
延床面積	5785.79m <sup>2</sup>
階数	地上9階 地下1階
構造	基礎 ベタ基礎
	骨組 SRC造
	3階柱頭部に免震装置を設けた中間階免震構造
床	RC造一部PC版
耐震壁	RC造



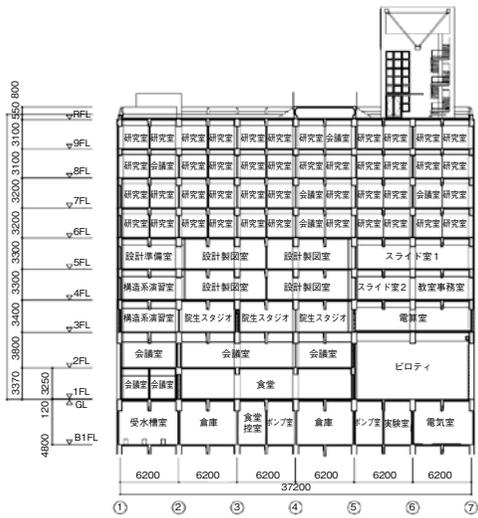
空調が完備された研究室階のフロア



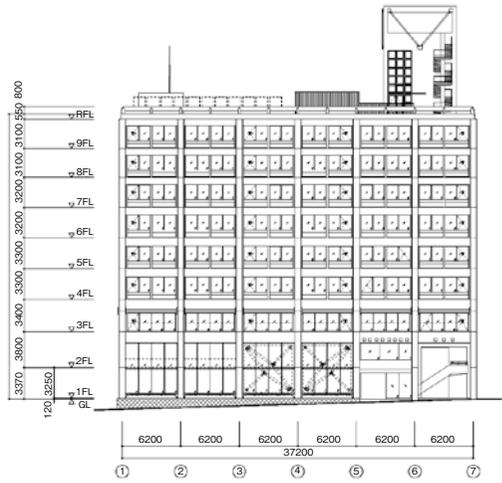
1階食堂ガラスを通してトグルを見る



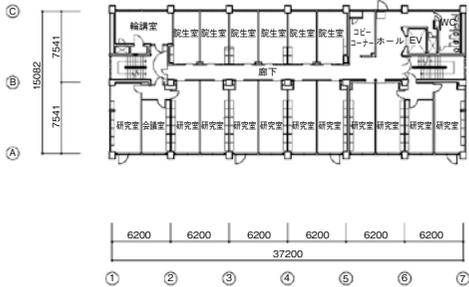
3階院生スタジオのダイナミック・マス・ダンパー



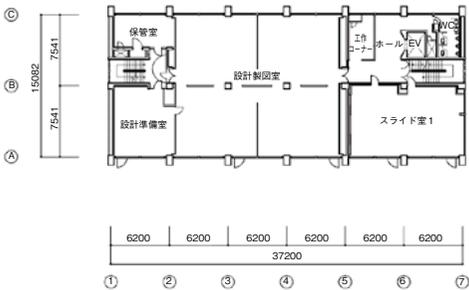
長手断面図



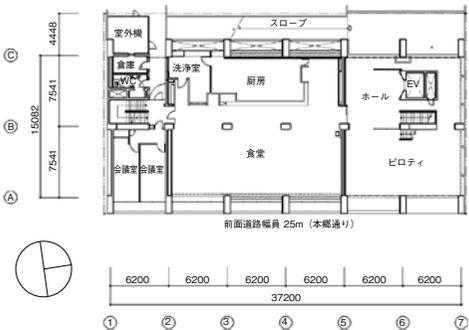
東側立面図



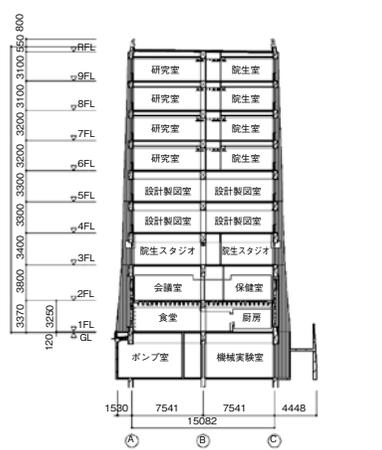
8階平面図



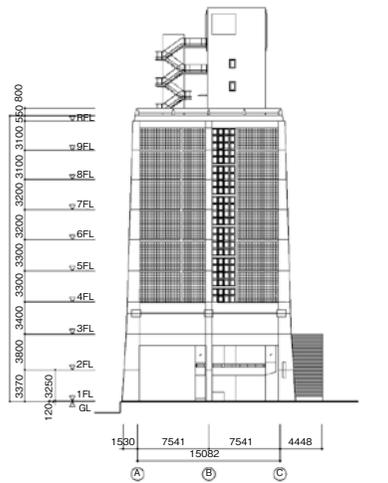
5階平面図



1階平面図



短手断面図



北側立面図

縮尺 1/800

## 5号館免震・制震ハイブリット改修工事

石丸辰治

この建物は昭和34年に竣工したもので、構造的には「既存不適格」であり、耐震改修の必要に迫られていました。その際に考慮されたのは、大先輩の宮川英二先生の代表的作品であり、また加藤渉先生のシェル基礎や小野褰先生の1～2階のフロント吹き抜けの彫刻など、理工学部建築学科を大きく育てられた大先輩方の足跡をいかに保存するかということでありました。通常の「耐震改修」では「壁・柱」が厚くなりすぎて、建物の「表情」をことごとく破壊する恐れがあり、また「免震改修」にしても大きな問題がありました。

なぜならば、通常の方法は構造物の揺れかたを3秒程度に設定して、免震層の変形を大地震の際に30cmから40cm程に水平方向にゆっくり変形させることで成立しているからです。

1～2階のフロント吹き抜けの彫刻を保存するためには、3階の柱頭免震しか方法がないのですが、この建物の外側柱と公道までの敷地境界との間が15cm程度しかなく、通常の免震システムですと、免震層より上部の構造体が大地震時には公道や隣地境界を飛び出すことになってしまうからです。

本工事は大手ゼネコン5社の競争設計で清水建設の案が採用されたものですが、その基本になった考え方が、構造物の揺れかたを2秒程度に縮め、免震層の変形を通常のものより少し小さくし、さらに日大で開発された「ダイナミック・マス・ダンパーの設計方式」を採用することでありました。これにより、想定設計用地震動に対して免震層の変形を15cm以内に収めるシステムにすることに成功しています。

図1は3階の柱頭に装着されている「ダイナミック・マス・ダンパー」の構成図ですが、シャフトねじ軸が矢印の方向に「1」変位すると、内筒の回転体の円周方向の動き $\beta$ が「20～40」倍に増幅されて動くというものです。内筒と外筒の間に「シリコンオイル」が封入されており、「オイルダンパー」としての効果を持っていますが、実は

この内筒の質量を少し大きく設計しておき、「回転慣性力」により「原構造物の質量」を「調整」できるところに大きな特徴があります。結論的には内筒の質量 $m_d$ とすると、このデバイスの質量効果 $m'$ は $m'=m_d\beta^2$ となります。この建物では概略、 $m_d=0.22\text{ton}$ 、 $\beta=20$ で、1基あたり83tonの質量効果を有するものを6基ずつ水平2方向に設定されています。免震層上部の質量は約5000tonですので、約1割程度の質量増加です。このように建物本体とは異なる質量による「慣性力」は、通常の免震層の変位する方向とは全く逆方向にブレーキをかけるように抵抗力が発生するので、その分だけ変位が抑えられるという効果があるのです。

振動方程式では $\ddot{x}+(c/(m+m'))\dot{x}+(k/(m+m'))x=-\ddot{y}$ のような形になります。ここで $x$ は構造物の変形の大きさを意味しています。左辺の第1項は加速度、第2項は粘性減衰力の項、第3項はばね抵抗力の項です。右辺は地震動の加速度 $\ddot{y}$ です。

この式から、デバイスの質量効果 $m'$ があると、地震動入力の効果は $(m/(m+m'))$ に低減されるのが分かります。前述したようにこの建物では、この値は約0.9になるように設計されています。こうした新しい考え方で設計された第1号の建物がこの5号館です。

これだけでは、上部構造はそのままにして且つ免震層の変位を15cmの変形に収めるということができませんので、1～2階に「複層トグル機構」+「摩擦ダンパー」を設け、振動エネルギーの2割ほどを吸収させています。トグルは一種の「てこ機構」です。

例えば図2の矢印のようにダンパーに力がはたらくと、A点のピンでの力の釣り合いからトグル腕にはダンパーの3倍ほどの力が作用することになります。そしてその分だけ、エネルギーの吸収性能が向上するというものです。

このように、狭い敷地でも「免震改修」が可能であることを示した設計であり、東京・銀座などの狭い敷地に建っている「既存不適格」の構造物を「再生」できる見事な見本を示した工事といえるでしょう。

(いしまるしんじ・教授)

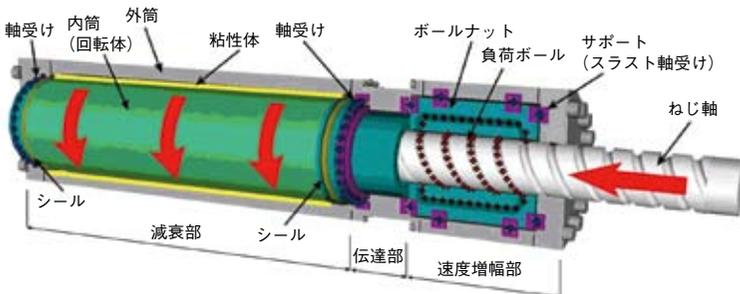


図1 ダイナミック・マス・ダンパー

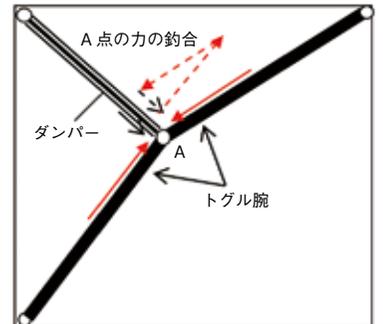


図2 トグル機構

## 再生5号館の環境・設備計画

キーワード：道路騒音，室内騒音，温熱環境，換気，省エネルギー

井上勝夫・早川 眞

### 1. はじめに

5号館は50年余りの歴史を有しているが，その居住性の確保は建設当時の図面によると，南北に走る中廊下と，東西に面する居室の窓による自然換気と暖房のみで，今という環境配慮建築である。

当時は本郷通りの交通騒音や粉塵も全く気にならなかったに違いない。ただ，西日対策は何も行われていないので昔から暑かったに違いない。

駿河台で自然換気を取り入れた建物を見学したことがあるが，取り入れ口近くのカーペットは黒く汚れていた。環境配慮建築は環境の良い所にしか建てられない。

### 2. 改修に当たっての計画コンセプト

気になる敷地環境は本郷通りの道路騒音，粉塵，西日で，それらに対してどう対応するかがポイントになる。実際，改修前のスライド室は二重サッシに改修されてはいたが，道路騒音がうるさく，まともに会話はできなかった。そして，西に面した研究室では暑さに悲鳴をあげていた。

#### 1) 東側窓の遮音性能検討

まず，東側は各社のコンペ案では1スパンに1個の割で全熱交換器付き換気扇を設けていたが，遮音が期待できないこと，外観がうるさいことなどから，嵌め殺しとした。すなわち，給排気とも機械換気に頼ることとした。

室内の静謐性を確保することが最優先で，ペアガラスの仕様を決めることにし，表1の例に示すような検討を行った。本郷通り（東側）に面する室は，道路騒音の影響を受け，室内の音環境性能が低下するため遮音対策を行った。道路騒音の透過による室内騒音の設計目標値は建築学会の推奨基準（学校：教員室）の1級（N-35（35dB<sub>A</sub>））とし，2級を許容水準とした。

設計は，まず，既設5号館の1階，5階，屋上階の道路側壁面より1m位置において道路交通騒音を測定（5分間L<sub>Aeq</sub>，L<sub>eq</sub>）し，その結果から各階の外部騒音負荷レベ

周波数 (Hz)	63	125	250	500	1000	2000	4000	A特性
3F 外部負荷レベル	74	71	67	64	67	62	53	70
サッシの透過損失 (T-3等級)	20	24	28	31	35	33	33	
透過損失の補正	-3	-3	-3	-4	-5	-5	-5	
室内騒音推定値	51	44	36	29	27	24	15	34

大部屋：室寸法：7.5m × 6.2m，高さ：2.4m，窓面積：4.8m × 1.6m  
 小部屋：室寸法：7.5m × 3.1m，高さ：2.4m，窓面積：2.4m × 1.6m

表1 3F 大部屋部分の室内騒音レベルの推定例

ルを推定した。次に，室内に拡散音場を仮定して平均吸音率を0.1（63～250Hz），0.12（500Hz），0.15（1k～4kHz）とし，室内設計目標値から窓部分の必要透過損失を算出した。そして，それを満足するサッシとして（FL4 + A6 + FL8，FIX）を選定した。サッシの透過損失等級はT-3等級となり，カタログデータを現場へ適用する補正值を-3～-5dB（大部屋），-4～-6dB（小部屋）とした。室内の推定騒音レベルは，32～35dB<sub>A</sub>（大部屋），31～34dB<sub>A</sub>（小部屋）となり設計目標値を満足する結果となった。

以下に設計上のデータを示しておく。

#### 2) 西側窓の熱・換気対策

西側の西日対策としては外側ブラインドや植物などを用いた外側での日射遮断が理想的であるが，最低限の対応として，外側Low-e（低放射）ガラスのペアガラスの採用とし，窓面からの侵入日射量を改修前の60%減としている。さらに，小窓による換気を可能とした。

省エネルギーの観点から，腰のPC板も断熱したいところであるが，面積的には窓ガラスの影響が大きいため省略した。ペアガラスの採用で冷房負荷を7%程度下げることがあると考えている。

なお，省エネルギー対策としては照明器具のHf蛍光灯の採用や，換気システムにはすべて全熱交換器を採用している点が挙げられる。

#### 3) 換気計画

もっとも難しい計画であった。結果として物理的に設置できる最大限の換気装置を用意し，自然換気と併用することで対応している。

図3に4階製図室の換気系統図を，表2に風量をまとめて示す。給気ダクトを廊下部分の梁下スペースを最大限に利用したダクトでの送風量は約1800m<sup>3</sup>/hで，東西の居室ゾーンに吹出し口15個で供給している。送風量は建築基準法に当てはめると定員90名となる。それ以上は自然換気でまかなわねばならない。表2の排気量をみると外気給気量よりも400m<sup>3</sup>/h弱い。したがって，建物内は負圧となる。窓を開けて外気取り入れ量を増やす必要がある。

外気取り入れ量	製図室 含 構造演習室 保管室 教室事務室 第2スライド	1760m <sup>3</sup> /h  240 240
外気合計		2240m <sup>3</sup> /h
排気量	製図室 工作室 トイレ 給湯コーナー	1760 300 400 150
排気合計		2610m <sup>3</sup> /h

表2 4F 機械換気量

この数字は各階ほとんど同じである。基本的には東側、西側の1スパンあたりの外気供給量はそれぞれ120m<sup>3</sup>/h、100m<sup>3</sup>/hが基準となっている。

### 3. 運用上の問題と工夫

静かな新しい居室での快適な生活が始まったかにみえたが、建材から発生するVOCs（揮発性有機化合物）と推定される室内空気汚染物質の問題が発生した。入居1カ月前から機械換気を実施していたようだが、昼間だけだったようで、4月に入居して以来は早川が24時間換気運転に切り替えた。また、4月末からの連休を利用して研究室の新メンバーとともに風量測定を行い、設計風量より多めの1900m<sup>3</sup>/hが確保されていることを確認した。さらに室内空気質（IAQ；Indoor Air Quality）を改良するために連休期間中、屋上出入口も含めて開放したことにより、ほとんど問題ない状況までできていると考える。もちろん、竣工時には文部科学省の通達に基づき、代表10室くらいのIAQの測定が行われ、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレンなどいずれも基準値はクリアしていた。しかし、周囲温度が上がるにつれてVOCsの発生も増す可能性があるため、この夏期休暇期間中に測定する計画もある。

次に、表2で示したように、製図室や会議室で多数が集まった場合の換気量不足への対応を誤らないようにしなければならない。

不足気味の外気量の確保やフロアの通風は

- ① 会議室、研究室では、1スパンあたりの定員を6名と考へ、それを大きく上回る場合は、廊下の空気環境の方が良くなるので、扉を少し開放して使う。
- ② 各階の西面に設けられた小窓を常時開放状態とする。

- ③ 南側階段室の押し出し窓を常時開放状態とする。幸い1階出入口は常時開放状態にある。
- ④ 廊下の通風の障害になる扉は開放状態とする（とくに3F南側）。
- ⑤ 北側階段室より煙突効果で流入する外気を利用する。具体的には屋上出口の扉の常時開放あるいは、屋上EVホールの嵌め殺し窓の一部の押し出し窓への改造などに努める必要がある。

ここで、付属室ともいふべき工作室や給湯コーナー、トイレの排気は室内の汚れた空気の排出に利用しないと、効率の悪い換気となってしまふ。すなわち、工作室、トイレにも小窓が存在するが、これを開放すると新鮮外気を取り込んでそのまま排気してしまうので、居室側の換気に何ら貢献しなくなる。したがって、

- ⑥ 工作室、トイレの小窓は緊急時を除いて、絶対に常時閉鎖を守っていただきたい。
- ⑦ なお、研究室の排気は熱交換後すべて廊下に排出される。例え、部屋の中で弁当を食べても、その匂いがきつい場合は、廊下中に漂うことになるので要注意。

以上、静謐な環境と引き換えに、換気量は十分とはいえない環境となったので、荒天時を除いて常に開口部の確保に努めていただきたく、一方で荒天時にはそれらの閉鎖に協力していただきたい。

空気質の問題が解消すれば、24時間換気も昼間運転に切り替えて、省エネルギーが図れると考えている。また、冬を迎えると、新たな問題が発生するかもしれないが、既存ビルの再生にはいくつかの制約が存在する。その都度よりよい回答を求めて努力していきたい。

（いのうえかつお・教授、はやかわしん・教授）

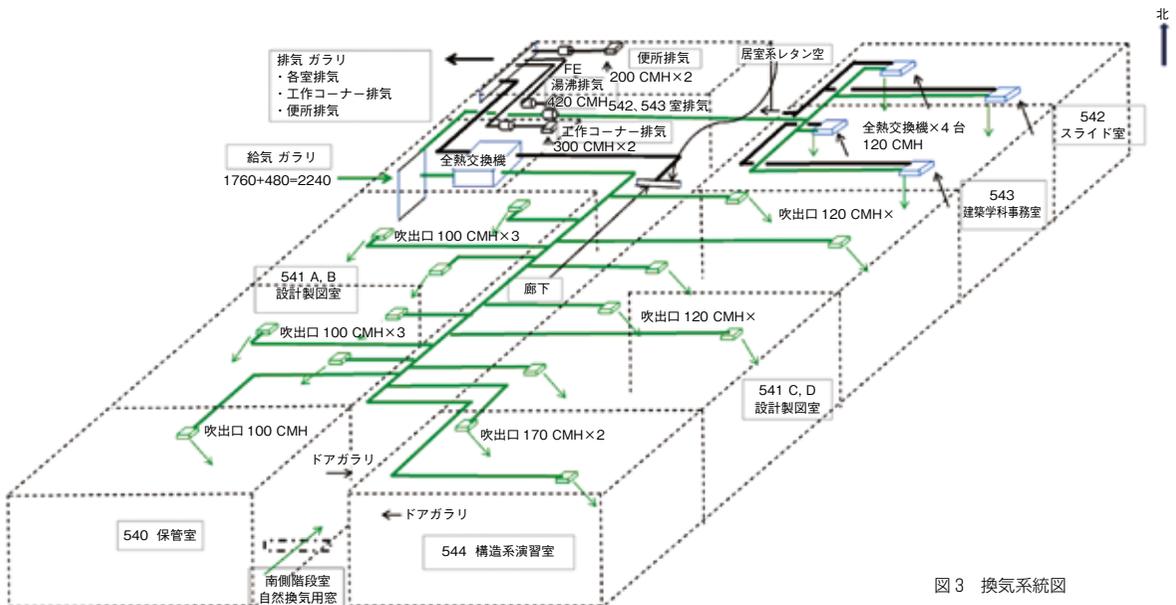


図3 換気系統図

# ふたつのコンペについて

佐藤光彦



模型写真：新幹線ホームより西口広場のぞむ

## 熊本駅西口駅前広場設計競技【最優秀賞】

平成 23 年春の九州新幹線鹿児島ルート of 全線開業に向け、熊本駅およびその周辺エリアでは、大規模な再開発が進められています。熊本に行かれたことがある方なら、ご存じだと思いますが、商業や行政の中心部は熊本城から水前寺公園にかけてのエリアにあり、現在の駅周辺は、かなりさびれた状況にあります。そこで、陸の玄関口としての駅周辺の都市機能向上をはかり、新幹線開業による経済的効果を最大限に波及させるための事業が展開されているのです。その一環として西口駅前広場が計画されています。現在、駅の西側には出口さえなく(!)、倉庫や住宅が建ち並んでいます。整備計画の中で東口が「九州・熊本の情報発信の場」とされているのに対し、西口エリアは「新しい都市生活を創造する場」として位置づけられており、駅前の商業施設以外は主に住宅地となります。広場の規模もそれほど小さくなく、よく地方駅に見られるタイプの広場として計画されていました。

私たちの案は、205 点の応募案から 1 次審査で 5 点の中に残り、5 月 10 日の公開 2 次審査で最優秀賞に選ばれました。ちなみに、東口駅前広場の設計者は、昨年末の指名コンペで西沢立衛氏に決定しており、駅舎の設計は安藤忠雄氏に委託されているそうです。

また、この設計競技は、熊本県が推進する「くまもとアートポリス」の参加事業として実施されています。「アートポリス」とは、1988 年に当時の細川知事（後の首相）が、磯崎新氏をコミッショナーに迎え、後世に残り得る文化的資産の創造と地域の活性化を目指して始めた事業で、

県内の主要な公共施設（一部民間施設も含む）の設計を県内外の優れた建築家に委託するというものです（通常、公共建築の設計者は「設計入札」で決まります）。現在までに 70 以上の施設が完成しています。このような事業は他の地域でも試みられましたが、20 年も持続している例はなく、国内のみならず海外からも注目されているプロジェクトです。

私たちの提案は、駅前広場を、コンコースから連続した「半屋外の公園」のような場所にして、駅と街、建築と都市をつなぐ空間とすることです。

このコンペのために、あらためて規模の似た駅前広場を見てみましたが、どれもが同じような印象しか残りませんでした。つまり、中央に巨大なロータリーがあり、バスやタクシーが待機し、周囲をさまざまな商業施設が取り囲んでいる、という様相が駅前広場の印象を決定しているのです。狭い歩道部分に置かれるシェルターや植栽がどんなにデザインされていても、ほとんど影響がありません。また、駅のコンコースを出ると、突然そのような雑然とした風景の中に、ボンと放り込まれるような状況も気になりました。

そこで、私たちは車道と歩道の境に、たくさんの穴（バスやタクシーの乗降口を含む）の空いたスクリーンを立て、芝生のマウンドやさまざまな植栽を計画し、雨に濡れずに目的地まで行けるように動線上にルーフを設けることで、半分囲われた公園のような、人々が楽しく滞在し、行き交うことができるスペースをつくり、駅と街を緩やかに連続させることを考えました。また、駅前広場とは



模型写真：俯瞰



パース：コンコース出口より見る

交通広場ですから、人々を効率よく誘導するためのサイン計画が重要です。誰が見ても分かりやすいように、これらをスクリーン上に大きく表示しました。つまり、誘導サインやシェルター、乗り場案内、時計、ガードレールといった駅前広場に必要な要素を、「スクリーン」と「ルーフ」に集約しながら、新しい空間として駅前広場を再構成したのです。このスクリーンは、周囲に建ち並ぶであろうさまざまな商業建築のデザインを調停するための前景となることも期待しています。ロータリー側は黒くしていますが、これは市民に愛されている熊本城の黒壁を多少意識したものです。

共同設計者として、構造計画を齋藤研 OB の小西泰孝さんに、植栽計画を山崎誠子先生に、照明計画を吉田研 OB の角館政英さんをお願いしています。

3年後の完成を目指して、市民の皆さんに親しまれる、これまでにない駅前広場が実現できるように、頑張りたいと思います（コンペ案の詳細については、『GA JAPAN 93号』に掲載されていますので、興味のある方はそちらもご覧ください）。

### 澄心寺庫裏デザインコンペティション【入賞】

信州伊那盆地にある禅宗（曹洞宗）の寺、澄心寺ちゅうしんじの庫裏くり（お寺の居住部分）とその周辺のランドスケープについてのコンペです。小さなお寺がコンペを行うのは珍しいことですが、新住職の就任に際し、境内全体を21世紀の「共（コモン）」のプラットフォームとして再生することが目指されていました。かつては地域の文化的、精神的な中心であった寺の存在を新しい形で復活させること、居住部分のプライバシーを確保しつつ、人々が気軽に立ち寄れるような場所を併せもつことが求められました。

こちらのコンペは、研究室の大学院生が中心になって

進めました。私たちの提案は、プライバシーの高い寝室などの部屋をボックス状にして分散して配置し、その間にリビングや食堂などの機能を割り当て、美しい盆地の風景を望む道路側をコモンスペースとし、少し中心をずらした木造寄棟の大屋根で覆うというものです。大きな屋根が地面から少し浮いて、その奥に大小の箱が並んでいるような姿になっています。このような構成とすることによって、法堂、客殿から連なる加藍はつとうの風景を拡張し、コモンスペースと居住部分を緩やかに分節しながら共存させ、周囲の自然に開きながら、信州の厳しい冬の気候にも耐え得る新しい庫裏のあり方を考えました。ランドスケープでは、桜の並木道をつくるなど、季節ごとに人々が集えるような植栽を計画し、庫裏の面する四つの方向では、それぞれ異なったしつらえの庭が見えるようにしました。

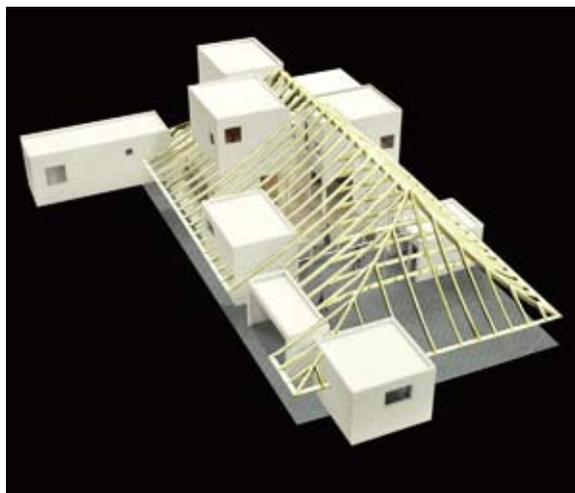
こちら、構造設計を小西さんに、植栽計画を山崎先生をお願いしています。また、禅宗様の建築について、重枝先生よりレクチャーと貴重なアドバイスをいただきました（今回ほど建築史の話が身にしみてリアルに感じられたことはありませんでした。学生の皆さん、歴史は大事ですよ!）。

澄心寺は残念ながら入賞まででしたが、大変良い勉強になったと思います。ふたつのコンペは、3月から5月にかけてほぼ同じスケジュールで進行し、特に2次審査では、熊本の1週間後に澄心寺というハードなものでした。コンペに関わった人数は、共同設計者や、事務所の所員、研究室や手伝ってくれた学生を含め40名にのぼり、建築は一人ではできない共同作業であることを、あらためて感じる機会にもなりました。これからも、積極的に実施コンペに挑戦していくつもりです。

（さとうみつこ・准教授）



立面図：右端の建物が提案部分



構造模型

# 平成19年度 建築学科就職状況

## 建築学科就職事務室

### 概況：内定率91%は昨年度並み

就職担当として、早くも11月頃から多くの企業の採用担当者と面談したので、平成19年度はかつてないほど高い内定率が出るのではと、ひそかに期待していましたが、終わってみると昨年度と同じ就職率90%超にとどまりました。それでもここ数年の中でも好況感を反映していると思います。10年前から続いた就職氷河期がようやく終わったことを実感し、過去の卒業生、とくに女子学生が、優秀でありながらも職にありつけなかった時代が続いたことを思うと、今の学生諸君は恵まれた環境におかれた幸運に感謝すべきです。

表-1は大学院も含めた350人の卒業生の進路状況ですが、約3/4の人が就職を希望しました。

就職率は先に述べたように91%ですが、教員の目からは優良企業で、仕事も面白そうと思いながらも、学生が動かなかった企業も少なくなく、もったいないなあと感じたこともあります。

昨年度から求人情報は本部で一元化しているので何社から募集があっ

たのか不明ですが、前年の700社以上ではないかと思います。

### 内定企業種別：建設業の大量採用復活、住宅分野の漸減、不動産の躍進

表-3は企業別の内定者数を表しています。過去のデータと比較すると見出しのような傾向が読み取れました。また、絶対数は少ないものの建材・エンジニアリング分野が増えました。とくに半数は女子学生で、就業環境を考えると良い選択をしていると思います。また、官公庁へ合格した人は7人です。もっと挑戦して欲しいのですが、合格するには強い信念と学習が必要です。

### コース別の特色現る！

コース別の進路状況は別の機会に紹介しますが、大まかな傾向を述べると、環境・構造コースはエンジニアリングコースに相応しく、建設、住宅、建材・エンジニアリング関連に、設計・計画コースは住宅産業、設計事務所、不動産分野に、企画・経営コースは圧倒的に不動産、そして住宅、情報分野と、各コースの特

徴が狙いどおり、顕著に出てきました。コース別学習が生かされており、喜ばしいことと思います。

### 平成21年度就職は？ 不況のかけり？

平成20年度も順調な滑り出しかと思っておりましたが、学部の女子を除くと決して好調とはいえません。要注意でしょう。3年生やM1の学生も本年12月頃から就職戦線が始まると思います。

表-4に分野ごとに具体的な企業名を示してあるので参考にしてください。ゼネコンの一部に研究室推薦

表-2 月別求人件数

	平成19年度	平成18年度
10月	4	0
11月	12	13
12月	24	31
1月	31	100
2月	35	162
3月	17	124
4月	15	74
5月	12	104
6月	9	58
7月	12	25
8月	3	16
9月	0	6
10月	0	0
11月	0	2
12月	0	0
1月	0	1
2月	0	0
3月	0	0
合計	174	716

※今年度、求人数が激減した理由は、日大本部の求人サイト「NUナビ」による求人公開のため、建築学科に募集要項・求人票が回覧されなくなったことが挙げられます。

表-1 就職状況の概要

注：( )内は女子内数

	平成19年度			平成18年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	220(81)	57(14)	6(2)	231(73)	63(18)	4(1)
就職内定者数	202(75)	51(13)	5(2)	207(66)	59(16)	4(1)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	85(23)	5(1)	0	99(21)	9(2)	0
就職・進学者数	287(98)	56(14)	5	306(87)	68(18)	4(1)
求人会社数	174			716		

がありますが、まず、すべて自由応募で決まっているとって間違いはないでしょう。しかし、応募に際しては就職担当教員やゼミの先生方に相談をして情報を求めてください。研究室の先輩の話が聞けるかもしれませんが、内定を決めてからこんなはずではなかったと言わないように。

### コミュニケーション能力を磨くこと

好況が続いた昨年、一昨年でも内定を貰う人と、そうでない人が出てきます。その差は何でしょう？ 人との接し方の能力、いわゆるコミュニケーション能力をもっているかどうかが重要なポイントの一つです。

友達との会話言葉しかもっていないということはないでしょうね。

社会人としての礼儀作法、言葉遣い、相手の意向を汲み取った会話のもっていき方を企業や社会は求めています。面接で部屋に入ってきた段階で、不合格者はすぐ決まります。そのくらい態度に滲み出てくるものなので、日頃から大学や社会で目上の人と、真顔で会話する訓練が必要でしょう。

とくに、いかに身づくろいをして、流行のビジネス用語を使っても本人が心底から訴えたいことをもっていないと、中身が空っぽなのはすぐばれてしまいます。

就活が始まるまでに、自分はそのような仕事を通じて社会に役立つかを真剣に考えてみてください。

### NU 就職ナビの利用

本部と学部の就職指導課や建築学科、桜建会では皆さんの就活を後押しするさまざまな情報の提供やイベントを用意しています。それらを有効に活用するとともに、内定を得た人は直ちに NU 就職ナビで報告してください。そして後輩たちに有益な情報を残すとともに、理工建築の高い内定率を世に PR したいものです。(平成 19 年度就職担当：早川 眞、

事務担当：矢萩有美子)

表-3 求人・内定者の内訳

	求人社数				内定者数								内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	48	14	4	66	43(12)	13(3)	5(2)		3(2)		51(16)	13(3)	18.7%
B 住宅・不動産	7	5	1	13	48(12)	3(1)	26(9)	2(2)	4(3)		78(24)	5(3)	24.2%
C 設備	12	3	1	16	3(2)					2	3(2)	2(0)	1.5%
D 設計事務所・インテリア	5	10	10	25	7(5)	6(1)	6(2)	8	8(4)	6	21(11)	20(1)	12.0%
E 建材・エンジニアリング	9	2		11	11(4)	3(2)	4(3)			1	15(7)	4(2)	5.5%
F コンピュータ・情報	7	8	2	17	4(1)		7(4)		1(1)		12(6)	0(0)	3.5%
G 製造業・営繕・その他	11	2		13	7(3)	2(1)	4(3)		4(2)	1(1)	15(8)	3(2)	5.2%
小計	99	44	18	161	123(39)	27(8)	52(23)	10(2)	20(12)	10(1)	195(74)	47(11)	70.6%
H 官公庁・大学法人				8							6(1)	3(1)	2.6%
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)				5									0.0%
J 自営業											85(23)	5(1)	26.2%
総計				174							1(0)	1(1)	0.6%
											287(98)	56(14)	100.0%
											343(112)		

以上の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員 500 名以上、中企業…従業員 100 名以上、小企業…99 名以下、( )内は女子内数、求人社数…再募集は除く。

表-4A 就職先の内訳〈建設〉

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院
竹中工務店							3(1)	2	3(1)	3	長谷工コーポレーション							2		3	0
清水建設			1(1)				1	1	2(1)	1	奥村組							2		2	0
鹿島建設							11(3)	2	11(3)	2	鴻池組							1(1)		1(1)	0
大成建設					1	1	6(3)	1	7(3)	2	北野建設							1	1(1)	1	1(1)
大林組			2				1		3	0	東鉄工業							1		1	0
戸田建設					1				0	1	山田建設							1		1	0
西松建設							1		1	0	増岡組							1(1)		1(1)	0
前田建設工業							2(1)		2(1)	0	合田工務店							1		1	0
フジタ								1(1)	0	2(1)	白辛産業							1		1	0
間組								1(1)	0	1(1)	エム・ワン							1(1)		1(1)	0
東急建設			1(1)				1		2(1)	0	菊池建設							1		1	0
熊谷組							2(1)		2(1)	0	常総機材					1(1)				1(1)	0
安藤建設							2		2	0	シーンメイキング							1(1)		1(1)	0
総計											0	0	5(2)	4	2(1)	0	44(13)	9(3)	51(16)	13(3)	

表-4B 就職先の内訳 (住宅・不動産)

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計			
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
積水ハウス							3(2)	1(1)	3(2)	1(1)	ららぽーとマネジメント								1(1)		1(1)	0
旭化成ホームズ							2(1)		2(1)		エム・シー・コーポレーション								1		1	0
大和ハウス工業							4(1)	2	4(1)	2	イマックスビルマネジメント								1		1	0
三井ホーム							1		1	0	日本管財								1		1	0
パナホーム							1(1)		1(1)	0	すみしん不動産								1		1	0
大東建託							2		2	0	ゴールドクレスト								1		1	0
木下工務店							4(2)		4(2)	0	エフ・ジェー・ネクスト								1		1	0
富士ハウス							1		1	0	セボン								2		2	0
ボラスグループ							5		5	0	日本ビルディングセンター								1(1)		1(1)	0
東栄住宅							1(1)		1(1)	0	トヨタホームあおい								1(1)		1(1)	0
扶桑レクセル							2		2	0	ゼファー									1(1)	0	1(1)
三井不動産ビルマネジメント							1		1	0	ザクテクノサービス								2(1)		2(1)	0
住友不動産リフォーム								1(1)	0	1(1)	ケンコーポレーション								1		1	0
ミサワホーム東京							1(1)		1(1)	0	エスグランドコーポレーション								1		1	0
ミサワホーム東関東							1		1	0	フージャスコポレーション								1(1)		1(1)	0
ミサワホーム西関東							1		1	0	リスト								1		1	0
ミサワホーム静岡							1		1	0	イマス								1		1	0
三井ホームリモデリング							2		2	0	プロバスト								1(1)		1(1)	0
スターツコーポレーション							2		2	0	大栄不動産								1		1	0
スターツCAM							2(1)		2(1)	0	サジェスト								1		1	0
スターツアメニティ							1		1	0	東洋プロパティ								1		1	0
スウェーデンハウス							1		1	0	ライク								1(1)		1(1)	0
センチュリーホーム							2(1)		2(1)	0	松屋住宅								1(1)		1(1)	0
東急ホーム							1(1)		1(1)	0	トーセイ								1		1	0
東急リパブル							1		1	0	ケンテック								1(1)		1(1)	0
興和不動産							3(1)		3(1)	0	ライズウエル								1		1	0
三井リハウス東京							1		1	0	ゆとりホーム								1(1)		1(1)	0
シービー・リチャードエリス							2		2	0	プラスライフ								1(1)		1(1)	0
総計																			78(24)	5(3)	78(24)	5(3)

表-4C 就職先の内訳 (設備)

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計			
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
新日本空調							1		1	0	AGK 建築音響								1		0	1
大成温調							1(1)		1(1)	0	朝日エティック								1(1)		1(1)	0
日本板ガラス環境アメニティ							1		0	1	総計	0	0	0	0	0	0	1	3(2)	1	3(2)	2

表-4D 就職先の内訳 (設計事務所・インテリア・コンサルタント)

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部
日建設計							1	0	1	奥野設計									1	0	1
久米設計							1	0	1	東畑建築事務所									1	0	1
日本設計							1	0	1	クレオ-敬建築士事務所									1		0
みかんぐみ							1		1	0	博展								1		0
松平田設計							1	0	1	アーツ&クラフト建築研究所									1(1)		1(1)
安井建築設計事務所				1			0	0	1	藤和設計									1		1
梓設計							1	0	1	多田学・一苗建築事務所									1		1
日立建設設計							1	0	1	夢真ホールディングス									1(1)	1(1)	1(1)
構造計画研究所							1(1)		1(1)	0	河淳								1(1)		1(1)
INA 新建築研究所							1	0	1	ピーディーシステム									1		0
エヌ・ティ・ティ・デザイン				1(1)			1(1)		1(1)	0	バウハウス丸栄								1(1)		1(1)
乃村工務社							1	0	1	くろがね工作所									1(1)		1(1)
丹青社							1	0	1	IRAKA 設計事務所									1		0
スペース							2		2	0	インターオフィス								1		1
大塚家具							1(1)		1(1)	0	天然社								1		1
日建ハウジングシステム							1	0	1	田中事務所									1(1)		1(1)
今村雅樹アーキテクト							1(1)	1	1(1)	1	東京ソイルリサーチ								1		1
横河設計工房							1	0	1	一誠コーポレーション									1(1)		1(1)
協立建築設計事務所				1			0	1	0	1	オーノ JAPAN								1		0
総計											0	0	1(1)	2	2	1	18(10)	17(1)	21(11)	20(1)	

表-4E 就職先の内訳〈建材・エンジニアリング〉

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
YKK ap							1		1	0	大建工業				1(1)				1(1)	0	2(2)	
新日軽							1(1)		1(1)	0	日本製紙総合開発								1(1)		1(1)	0
トステム					1				1	0	三見金属工業								1		1	0
INAX							1(1)		1(1)	0	TOTO エムテック								1(1)		1(1)	0
新日鉄エンジニアリング					1				1	1	日産精密エンジニアリング									1	0	1
ナイス									2	0	ナカ工業								1(1)		1(1)	0
不二サッシ									1	0	キャプティ								1		1	0
三菱化学エンジニアリング							1(1)		1(1)	0	ユニティー								1(1)		1(1)	0
総計	0	0	0	0	2(1)	1	0	14(7)	2(1)	15(7)	4(2)											

表-4F 就職先の内訳〈コンピュータ・情報〉

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
日本IBM							1		1	0	日本エニス・エスケイジョン								1(1)		1(1)	0
富士ソスト							1		1	0	エグゼコミュニケーションズ								1(1)		1(1)	0
YAHOO! JAPAN							1		1	0	ケイケンシステム								1		1	0
ソフトバンクBB							1(1)		1(1)	0	イーソル								1		1	0
日本科学技術研究所							1(1)		1(1)	0	インクスエンジニアリング								1(1)		1(1)	0
コソチ(ソフコ)システム							1		1	0	ビルドシステム								1(1)		1(1)	0
総計	0	0	0	0	0	0	12(6)	0	12(6)	0												

表-4G 就職先の内訳〈製造業・営繕・その他〉

注：(株)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
東京電力							1(1)	0	1(1)	0	THK								1		1	0
東日本旅客鉄道							1		1	0	マルイスマートサポート								1(1)		1(1)	0
新建築							1(1)	0	1(1)	0	ウィルホールディングス								1(1)		1(1)	0
大日本印刷							1(1)		1(1)	0	SPG ホールマン								1		1	0
東武鉄道							1	0	1	0	トーガシ								1		1	0
相模鉄道							1		1	0	READ								1(1)		1(1)	0
コクヨ							1(1)		1(1)	0	イーアンドイー								1(1)		1(1)	0
JTBトラベランド							1(1)		1(1)	0	アイスクリエティブ&モデルズ								1		1	0
日本経済社							1(1)		1(1)	0	早稲田アカデミー								1		1	0
総計	0	0	0	0	0	0	15(8)	3(2)	15(8)	3(2)												

表-4H 就職先の内訳〈官公庁・法人〉

注：(財)は省略 ( )内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
防衛庁							1		1	0	福岡県庁								1	0	1	
中央区役所							1(1)		1(1)	0	豊田市役所								1		1	0
台東区役所							1		1	0	日本大学理工学部建築学科助手				1(1)					0	1(1)	
江東区役所							1		1	0	日本大学短期大学部建築学科助手				1					0	1	
東京消防庁							1		1	0	総計	0	0	0	2(1)	0	0	6(1)	1	6(1)	3(1)	

表-4I 就職先の内訳〈進学〉

注：( )内は女子内数

	学部		大学院		計			学部		大学院		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
日本大学大学院	66(17)				66(17)		法政大学大学院	1(1)				1(1)	
東京大学大学院	1				1		桑沢デザイン研究所	1(1)				1(1)	
東京芸術大学大学院	1				1		留学希望	1(1)				1(1)	
横浜国立大学大学院	1				1		その他	12(3)	5(1)			17(4)	
広島市立大学大学院	1				1		総計	85(23)	5(1)			90(24)	

表-5 企業内定の応募方法

	学部		大学院		計		比率
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
教室推薦	0	0	0	0	0	0	0.0
研究室推薦	6	8	14	5.8			
縁故推薦	5	2	7	2.9			
自由応募	184	37	221	91.3			
総計	195	47	242	100.0			

注：官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く。

表-4J 就職先の内訳〈自営業〉

注：( )内は女子内数

	学部		大学院		計			学部		大学院		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
住宅・不動産			1(1)		1(1)		語学・翻訳・インテリア・コンサルタント	1				1	
総計			1		1(1)		2(1)						

## 2008年 関西研修旅行報告



平城宮大極殿復元現場

建築史・建築論研究室では毎年2月に関西研修旅行を開催しております。4泊5日の短い時間ではありますが、今年も奈良の古代寺院から、京都の中・近世寺院、町屋そして大阪の近代建築と、関西地域の代表的な建築を見学しました。

見学日程は以下の通りでした。

日程：2008年2月21日（木）～2月25日（月）

参加者：学生35名 引率教員5名

見学先：

2月21日（木）

東大寺（転害門、南大門、大仏殿、鐘楼、大湯屋、二月堂、法華堂）、春日大社、新薬師寺

2月22日（金）

薬師寺、唐招提寺、平城宮（大極殿）、浄瑠璃寺、法隆寺（金堂、五重塔、夢殿、etc.）

2月23日（土）

奥谷組資料館、間名寺、真珠庵

2月24日（日）

杉本家、紫織庵、新風館、京都国立近代美術館、佳水園

2月25日（月）

綿業会館、中ノ島中央公会堂、大阪倶楽部、大阪ガスビル

研修旅行は普段は入ることのできない場所を見学することや、見学先でわからないこと、疑問に思ったことを引率されている先生方にすぐに質問できることも魅力の1つです。

実際の作業現場への見学では、平城宮大極殿の復元現

場と京都東山の間名寺の修復現場へ行きました。大極殿では復元の現場であったことから、壁や屋根の作り方など、いくつもの実験的な検討が作業現場で行われている様子を見ることができました。間名寺の修復では、修復をされている宮大工の会社を訪問させていただき、実際の技術者から多くの技術的なお話も聞くことができました。参加者の中には宮大工を志す学生もいたようで、いい刺激になったようです。

京都国立近代美術館では、学芸員の案内のもと、正面からバックヤードまで見学をさせていただきました。

このように、建築の平面構成や外観から受ける印象を、実際に訪れることで感じるというだけでなく、作業の様子や美術館・町屋など、実際に建物を利用する人の声を聞くことで、普段とは違った視点からの関西旅行ができたように思います。

今回の旅行では2年生の参加者はいみせんでしたが、これからコース分けを控えた2年生にも、ぜひ参加をお勧めしたいと思います。

（幹事・佐藤 央（M1）・石井 陽・加藤久美子・木下洋道・関口あゆ美・長沢紘人・朴ジンウク（M2）・建築史・建築論研究室）

### 関西研修旅行の思い出

秋澤吉洋（4年）

京都においては大徳寺真珠庵や杉本家、紫織庵などのめったに見ることのできない木造建築を見学することができた。

真珠庵では曾我蛇足や長谷川等伯の障壁画を見ることができ、とても勉強になった。庭玉軒という茶室は京都



法隆寺



新薬師寺



浄瑠璃寺

ならでは、他では見られないどこか趣のある空間を生み出しているようであった。方丈東庭園という枯山水の庭園は、真珠庵でもっとも古いといわれ、「七五三の庭」と呼ばれる由縁となった15個の石と灯籠が作り出す、侘び寂びを感じる庭園であると感じた。

楳文彦設計の京都国立近代美術館では関係者以外立ち入り禁止である従業員用の動線構成や、美術品を搬送する動線などを見学するという貴重な体験をすることができた。京都の風致地区にある建物として派手な外装を抑えた建物となっており、現代建築としてとても興味をもった。

宿泊した佳水園は村野藤吾が設計した数奇屋建築のホテルで、ぜひまた泊まってみたいと思う安らぎの溢れる旅館だった。

疲れも出てきた最終日の大阪、今回の旅行の最後に訪れたのが『大阪倶楽部』だ。外見に華やかさはないが、外装のタイル一つ一つに味があり、趣を感じさせる。玄関を入ると外装とは違った雰囲気をもつ市松模様の大理石の床が出迎える。とくに印象的であったのは階段室で、薄暗さに映える赤絨毯に、ステンドグラスから黄色い光がこぼれ落ちたような空間は、どこか栄華の儂さを感じられ、大正浪漫を思わせる。

この関西研修旅行は一般ではなかなか見学できない有名建築を実際に見ることができるので、とても貴重な体験をすることができた。

### 体験する楽しさ

須田華世、清水涼子（4年）

関西研修旅行に参加して、多くの建築を見て、体験することができた。また奥谷組の工房や建設中の平城宮大極殿など、通常は立ち入ることのできない創造の現場を見ることもできた。その中でもとくに印象に残った三つの建築を挙げることにする。

「浄瑠璃寺（九体寺）」は池を中心とし、池の西には平安末期の本堂、東には三重塔が残っている。静けさを求めて京都のはずれに計画されたというこのお寺では、境内の静けさと光が浄土を思わせた。

「綿業会館」の重厚で存在感のある外観は「外は控えめ、中は豪華に」といわれているが、使用されているタイル

にしてもスチールのサッシュにしても一つ一つの素材から存在感を感じた。また各部屋はその部屋の機能に応じてデザインされていた。とくにジャコビンスタイルの談話室には圧倒されるものがあり、天井まで続く壁面のタイルタペストリーは室内に表情をつけていた。

イチョウ並木に面して建つ「大阪ガスビル」。設計者の安井武雄は、既成の古典様式に縛られていた旧来の設計手法に対し、目的と構造が先で、形態はおのずと決定するもの、という理念を示したようであった。水平垂直にきれいに並べられた窓や、強調された水平線、二階部分の黒御影石はまるで豪華客船を思わせ、丸みを帯びたコーナーやアーケードは、全体に気品を感じさせていた。さらに、現代においても新鮮さを失わないこのデザインが、昭和初期に完成されたデザインであることに驚かされた。

### 追悼：顔の家

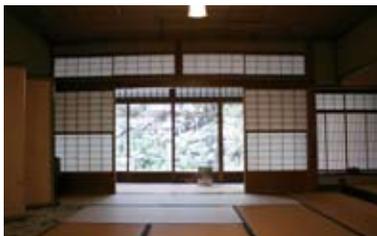
荒井一樹（M1）

前半に奈良京都の古建築を中心に、東大寺や薬師寺、唐招提寺などを見てきた中で、比較的小規模であった新薬師寺や浄瑠璃寺が深く印象に残った。

4日目には村野藤吾設計の佳水園に泊まった。中央の中庭を建物が地を這うように配置され、それぞれを渡り廊下で結ばれた構成は回遊性を感じさせ、また中庭側に設けられた開口部回りのデザインも魅力的であった。

自由行動では京都にある山下和正設計の“顔の家”に行ってきた。しかし訪れてみるとそこはすでに更地。「新築募集」の旗が立ち並ぶその光景は衝撃的であった。青山のフロムファーストの設計で知られる山下氏の代表作である顔の家。このインパクトの強いファサードをもった住宅が京都の町並みに対してどのように溶け込んでいるのか興味深かったのだが、これだけが残念であった。

今回の関西研修旅行は歴史研所属者が多く参加しており、個人的には半分卒業旅行のような感覚もあり、1年間ともに勉強してきた仲間と回る見学は建築本来の楽しみ方を思い出させてくれた。また普段の授業とは違って実物を前にした先生方の講義からは、建築の着目点など実践的なことも学べ、1年間書類に向かい続けて進めていた研究と違い、実践的であった。



紫織庵



佳水園客室



大阪倶楽部

# 平成 20 年度 短期大学部建設学科 オリエンテーション報告

星 和磨



鎌倉文学館にて



横須賀美術館にて

新入生の建築に対する興味を引き出すことを目的として、数年来短期大学部建設学科では、学内で学ぶ概要を理解する「授業科目オリエンテーション」と、学外は教材の宝庫であることを体験する「建築見学オリエンテーション」を行っています。今年度もこれら取り組み内容について報告します。

## 授業科目オリエンテーション

授業科目オリエンテーションは4月10日に行われました。まず始めに、クラス担任である羽入敏樹短大准教授および、矢代眞己短大准教授より、本年度より新カリキュラムがスタートし、いわゆる一般教養科目のほかに、専門科目をスムーズに履修するために必要となるスキルを身につけるベーシック系科目群が1年前期に設置されていることが説明されました。さらに構造材料系列、計画意匠系列、環境系列、情報系列ごとに、各系列の位置づけと今後学習していく内容の説明が行われました。

4月2日の事務ガイダンスから1週間程度しか経ておらず、まだ大学生活に慣れるのに精一杯な中、建設学科で学ぶことが非常に多岐にわたることがガイダンスされ不安になる新入生もいたでしょう。しかし恐れることはありません。さまざまな分野の総合体である建築学は、いうなれば懐の深い学問でもあります。広く習うとともに自分の興味のある分野や事柄を見つけて深く学ぶことができるのです。

## 建築見学オリエンテーション

ゴールデンウィーク明けから1週間経た5月15日、前日までの悪天候が嘘のように晴れ渡り絶好の見学日となりました。午前9時、出発時間に遅れる学生もおらずスムーズなスタートが切れました。まず向かうは三浦半島の観音崎にオープンしたばかりの横須賀美術館（設計：山本理顕設計工場）。首都高・横浜横須賀道路を経て三浦半島の入りくんだ海岸線を進むと、新緑で青々とした山の中に突如、白とガラスのファサードが目飛び込んできました。バスを降りて緩い丘を上り建物の中にはいると、ガラスのファサードに内包された角のない四角い空

間に導かれます。くりぬかれたいくつかの円い穴からレストランや売店、緑や空、海などいろいろな風景が見え、さながら客船に乗っているような感覚にさせてくれました。そしてエレベータで下ると地階は吹き抜けが心地よい展示空間、また逆に上がると遠く房総半島まで見通せる屋上庭園と、さまざまな側面をもつ空間構成を感じることができたのではないのでしょうか。

その後、久里浜港と金谷港を結ぶ東京湾フェリーターミナル内で昼食を取りました。学生グループ単位に教員が混じるスタイルを取りましたので、学生にとっては普段キャンパスで見る先生とはまた違った一面が見られたかもしれません。どのグループも笑顔が絶えず楽しい食事となったようです。

そして再びバスに乗り込み、国道134号線をひた走り逗子海岸を横目に鎌倉へ。鶴岡八幡宮手前でバスを降り、緩い坂を上って15分、閑静な住宅街の奥にたたずむ鎌倉文学館（旧前田侯爵別邸）を訪れました。この木造の洋館の構成や、数々の鎌倉ゆかりの文学者の展示物などみどころは非常に多いです。さらに、バラが美しい豊かな庭園を堪能することができました。

そして最後に訪れたのは神奈川県近代美術館鎌倉館（設計：坂倉準三）。外とは隔離されたゆっくり絵画を鑑賞できる二階の空間、その後には導かれる風がそよぐ中庭の空間、そして最後には平家池湖畔の静かな空間と、これら空間のコントラストが来訪者を魅了します。涼しい風がそよぎ、湖面に反射した光天井映し出されて揺らぐ様を見ていると、上階で鑑賞した絵画が自然と回想されました。

今回はこのような新旧美術館、文学館の建築探訪となりました。キャンパスから出て、建築によって作り出される空間を実際に体験する楽しさを感じてもらえたと思います。本オリエンテーションをきっかけに、机に向かって学習するだけでなく、いろいろなことに刺激を受けて興味をもち、それに打ち込む充実した学生生活となれば幸いです。

（ほしかずま・助手）

## 新任非常勤講師紹介

建築学科

### 石黒由紀 先生

(建築設計Ⅴ,  
デザインワーク  
ショップⅡ)



調布のアpartメント



#### 略歴

1990年 日本女子大学住居学科卒業  
1990～93年 東京工業大学建築学科研究生  
(坂本一成研究室)  
1993～96年 石田敏明建築設計事務所  
1996年 石黒由紀建築設計事務所設立

自分の時間と体力が有り余るほどあるのが学生の特権です。興味をもったらとことん追求してみる。気になる建物は実際に見に行く。課題でも、自分で問題点を見つけ、それを建築で解決する。だめそうな案もある程度まとめてみてどこがなぜだめなのか具体的にみる。その積み重ねで設計案に深みができます。たくさんの案を踏み台にしてできた最終案は説得力を増します。建築やデザインについて考えること、作業すること、を誰が何と言おうと自分自身が楽しめる能力としぶとさを身につけてください。(いしぐろゆき)

建築学科

### 伊藤朱子 先生

(デザイン基礎, 建築設計Ⅰ)



藤の家



#### 略歴

1994年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業  
1997年 東京大学大学院修士課程修了  
1999年 ㈱伊藤朱子アトリエ設立  
2000年 東京大学大学院博士課程単位取得退学

これからいかなる形にせよ、「建築」や「建築をつくる」ということに関わっていく中で忘れてはいけないことは「建築とは何か」、「建築を作るということはどういうことなのか」ということだと思います。建築を作ることを意味を考え続けなければなりません。漠然とした命題のように思いますが、学生時代を通してさまざまな角度からこの命題に取り組んで貰いたいと思います。そしてさまざまなことに興味をもち積極的に活動していきましょう。すべての経験が「建築」に関わる人生の糧になっていくことでしょう。皆さんと一緒に新しい経験ができることを楽しみにしています。(いとうしゅこ)

建築学科

### 関本竜太 先生

(デザイン基礎, 建築設計Ⅰ)



OPENFLAT



#### 略歴

1994年 日本大学理工学部建築学科卒業  
(小谷・本杉研究室)  
1994～99年 エーディーネットワーク建築研究所  
2000～01年 フィンランド・ヘルシンキ工科大学留学  
2002年 リオタデザイン設立

建築の設計やデザインという仕事は、ものづくりといわれる職種の中でも自ら手を下さない、職人さんやいろいろな人を動かして作りあげる社会活動です。言い換えると、自分が社会とどのようにつながるのか、人との関わり方を考えることが建築を考えることなのだと思います。人を動かすということは、人の心を動かすことです。人を動かす図面をつくり、それが結果的に人の心を動かす。在学中はもとより将来も建築に携わろうとする人は、常に周囲の人や社会との関わり方を考え続けてください。そこにしか、建築の答えはないと思います。(せきもとりょうた)

建築学科

### 竹田智志 先生

(民法 I, II)

略歴

1984年 法政大学文学部哲学  
科卒業

1984年～ 複数の新聞社勤務を  
経て現在、明海大学  
不動産学部、日本大  
学法学部、青山学院  
大学法学部兼任講師

2007年 千葉大学大学院社会文化科学研究科博士課程  
修了 法学博士



法律には、一度読んでわかる法律とわからない法律があります。記者活動のさなか、いつも大きな障害になるのは、その法律の壁。世の中は「政策」という言葉で溢れかえっていますが、この政策のうち重要な領域を占めるのも法律。私の「どげんかせんといかん」は、これを克服することで、ふと気付くと、いつのまにか、教室での位置が変わっていました。民法はとても厄介な科目かもしれませんが、不動産との関わりで見えていくと、考え方の幅のなかで少しずつ変化しています。その変化に気付くと、厄介どころか面白くなります。一緒に学習していきましょう。(たけださとし)

建築学科

### 納谷 学 先生

(建築設計Ⅲ, Ⅳ,  
デザインワーク  
ショップⅡ)



サッポロアパートメント

略歴

1985年 芝浦工業大学建築学科卒業

1985年 黒川雅之建築設計事務所

1987年 野沢正光建築工房

1993年 納谷建築設計事務所設立

2007年～ 芝浦工業大学大学院非常勤講師

ここ数年、いくつかの大学から声が掛かり非常勤講師は日本大学で3校目になる。普段事務所では、住宅を中心にした設計活動が中心だが、週に何度か大学で学生と接することで、私にとっても学生にとっても相乗的な効果が得られればと考えている。建築には境界がなく、歳も性別も経験も超えて、建築を学生と一緒に楽しみたい。(なやまなぶ)

建築学科

### 飛田幸作 先生

(デザイン基礎)



富士ソフト秋葉原ビル

略歴

1989年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士  
前期課程修了(近江研究室)

1989年～ (株)久米設計

現在 同建築設計部主管

30万人理論という考え方があります。非常識と思われる「こだわり」の持ち主は、決して特異な存在ではない。マーケティング理論上、一つの特異な趣味に同調する人の集まりは最低30万人になることを某新聞社のコラムニストが語っていました。例えば秋葉原。密室的な存在たちのエネルギーが集約し都市をも変貌させる大きなうねりとなりました。一つのものを作るにも多様なアプローチ(こだわり)があっただけいい。こだわりをエネルギーに。常識に捉われず、柔軟な発想から人々を巻き込む力を秘めた自らのこだわりを発見して欲しいと思います。(ひだこうさく)

建築学科

### 廣田裕二 先生

(鑑定評価理論 I, II)

略歴

1983年 慶応義塾大学商学部  
卒業

1983年 (財)日本不動産研究所  
入所

1997年 米国コロラド州私立  
デンバー大学院ビジ  
ネススクール不動産建設管理修士

2007年～ 国際評価室長兼環境室アドバイザー



不動産鑑定評価に必要な知識の一つに建築があり、建築の分野で生きていくのに鑑定評価に関する知識は必要です。ビジネス界では多くの専門家が相互に関連して一つのプロジェクトを遂行することが当たり前になっていますが、各専門家の役割分担、専門家責任については楽観視している感が否めません。互いの立場を理解するためにも鑑定評価の分野を覗いてみることは無駄ではありません。また、環境の不動産価値への影響が無視できなくなっています。プラスの代表は「グリーンビルディング」、マイナスは「土壌汚染、アスベスト」で、これも重要ですので授業で触れたいと思います。(ひろたゆうじ)

建築学科

**前田紀貞 先生**  
(建築設計Ⅱ, V,  
デザインワーク  
ショップⅡ)



MACHINE HEAD

**略歴**

- 1985年 京都大学建築学科卒業
- 1985~90年 大成建設設計本部
- 1990年 前田紀貞アトリエ一級建築士事務所主宰

建築に関わろうとするのであれば、「それは職業ではない」ということを承知しておかねばなりません。それは、「生き様」であり、「生きようとする事」そのものです。建築を流行の手法や著名建築家のコピーで済ませたり、常識やしきたりに従っているうちは永遠にニセモノの人生しか歩むことはできません。最初のうちは多少の破綻があったとしても、欧米建築に決して土下座することなく、筋の通った日本の建築文化を私たちの手で誕生させる。そういうことを、これからの学生はしっかりと身に取れないといけません。 (まえだのりさだ)

建築学科

**水野吉樹 先生**  
(建築設計Ⅲ, IV, 設計演習Ⅰ)



竹中工務店  
東京本店新仕屋

**略歴**

- 1985年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(建築史建築論(近江)研究室)
- 1985年~ 竹中工務店
- 1986年~ 同東京本店設計部
- 2007年~ 同設計本部伝統建築G兼務

いまでも、学生のころの課題や卒業設計作品を思い出すことがあります。それは、そのときに見つけた自分の好きなもの、興味のあるものが、現在の自分の目指すべき建築の原点となっているからかもしれません。設計者だけでなく、建築とその周辺の仕事に携わる人にとって、大学でのデザインや設計に関する授業での経験は、社会で自身の思いを具現化する力を養うための、大切なステップだと考えます。視野を拓き、若い豊かな感性を發揮して、好きなもの得意なことを見つけ、自分なりの夢や目標をもつ。皆さんとの対話の中で、そのためのアドバイスができればと念じています。 (みずのよしき)

建築学科

**矢口和宏 先生**  
(経済学特論Ⅰ, Ⅱ)

**略歴**

- 1994年 ライフデザイン研究所(現第一生命経済研究所ライフデザイン研究本部)入社
- 1998年 慶應義塾大学経済学研究科博士課程単位取得退学(経済学修士)
- 1999年 東北文化学園大学総合政策学部専任講師
- 2004年 東北文化学園大学総合政策学部助教授(現准教授)



私の専門は経済学で、これまで、不動産関連の経済政策や高齢者介護の経済効果の調査・研究に従事してきました。最近では、不動産証券化に関心をもっています。不動産を分析するにあたり、経済学は強力な分析用具を提供します。例えば、不動産証券化は、不動産にも金融的な知識が要求されることになりました。また、不動産税制や不動産規制の効果を探るには、経済学からのアプローチが不可欠となります。講義では、経済学の基礎理論(不動産鑑定士2次試験の出題範囲に対応)とともに、上記の現実的なテーマもとりあげていきます。(やぐちかずひろ)

建築学科

**柳澤 力 先生**  
(建築設計Ⅲ, 設計演習Ⅱ)



豊田市自然観察の森設計競技次点



**略歴**

- 1993年 東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修了
- 1993~2007年 (株)第一工房
- 2008年~ (有)建築計画連合取締役

学生の時の設計は、お施主さんの役割を兼任して好きにプログラムを構築でき、しかも大金持ち。周辺住民は皆味方で、役人さんも議員さんもいません。だからこそ、それをフル活用して『未来を考えるトレーニング』をしてください。実際、将来に生きるはずです。新しく考え、決めることのできるのが建築の醍醐味です。今学んでいる意匠や技術は表面的なものほどすぐに劣化し、ものを創ることは何かを壊すこととの認識も大事です。自分の価値観や自然環境などを見直し、学び続けて、これから起きるさまざまな変化に対処できる建築家に成長してほしいと願っています。 (やなぎさわつとむ)

**高安重一 先生**  
(ベーシック建築  
デザイン,  
建築デザイン I)



4連の家



**略歴**

1989年 東京理科大学理工学部建築学科卒業  
1990~95年 東京理科大学助手  
1995年 建築研究室高安重一事務所設立  
2003年 (有)アーキテクチャー・ラボ代表取締役

助手の頃、設計がうまくなるには？と設計の思考プロセスを研究していた。何人もの建築家に同じ課題を依頼してエスキスを記録させてもらったが、テーブル一つの設計でも恐ろしくたくさん判断を積み重ねながら最終形が現れてくる。どれほど多くの設計者に同じ課題を行っても同じデザインにはならない。となると、いま何をすべきか？という判断を自分の基準で的確に行い続けることが重要なのだと思う。そして私たちは大工さんではないから自分で建築を作れないので、その判断の集積を人に伝える術を身につけないと建築がスタートしないことも忘れないで欲しい。  
(たかやすしげかす)

■三橋博巳教授が、第7代日本不動産学会会長に就任した。任期は5月から2年間。  
■「2008年度第17回東京都学生卒業設計コンクール」(主催：日本建築家協会関東甲信越支部)において、池田琢氏('07年度横河研卒業、慶應大学大学院)が「アキバケイ 184の筒をくり抜く149の巣穴」にて金賞を、古澤修一君(今村研 M1)が「新宿菌糸の集合住宅」で金箱賞(審査委員特別賞)を受賞した。



アキバケイ

■吉野涼二氏(大成建設技術センター)、井上勝夫教授、三枝健二准教授(電子情報工学科)共著の原著論文「スリット状開口構造を対象とした漏洩電磁波の基本的性状の把握と数値解析による検討 板状電磁シールド材料間スリット状接続部の電磁シールド性能に関する研究 その1」が、日本建築学会環境系論文集 No.623 (2008年1月)に掲載された。  
■星和磨短大助手、羽入敏樹短大准教授、関口克明教授共著の原著論文「室形状の周波数別自動生成を組み込んだ音線法に

**教室ぶろむなード**

よる音響シミュレーション」が日本建築学会環境系論文集 No.625 (2008年3月号)に掲載された。

■阿部今日子さん(井上研 D2, 日本 ERI)、井上勝夫教授共著の技術報告「住宅性能表示制度と集合住宅の音環境に関する居住者・供給者の意識調査」が、日本建築学会技術報告集第27号(2008年6月)に掲載された。

■富田隆太助教、井上勝夫教授、伊東和君(井上研 M2)共著の技術報告「人の動作とゴムボール衝撃時の床振動応答加速度に関する実験的検討」が、日本建築学会技術報告集第27号(2008年6月)に掲載された。

■半貴敏夫教授は、6月1~5日にウィスラー(カナダ)で開催された国際会議「Snow Engineering IV」で副議長を務め、「Studies on Snow Accumulation around Buildings with Pilotis in Drifting Flow」と題する論文を発表した。

■短大建設学科が推進母体となった文科省特別補助国際学術交流プログラム「地域・大学間の連携による日中共同教育開

発プログラム」が、劉加平教授、楊柳教授、王怡教授、肖勇強講師(以上、西安建築科技大学)、劉涛助教(中国陝西省商洛学院)らの来日(2~4月)をもって終了し、日中共同研究のみならず、FDに関係した授業参観の実施など、積極的な国際学術交流が展開された。

■「付属高校生のためのCSTオープンカレッジ」が、6月8日に駿河台キャンパスで開催された。付属高校の生徒を対象としたイベントで、中田善久准教授、八藤後猛専任講師によるミニ講義が行われ、多くの付属高校生が来場した。

■「U41@NU 40歳以下の日大出身建築家展」(主催：桜門建築会)が、6月17~28日にCSTギャラリーで開催された。これからの活躍が期待される日本大学出身の40歳以下の建築家たち12組13人に注目し、彼らの代表作を写真や模型によって紹介したもの。26日には、講演者に鍋島千恵氏(生産工学部卒業、TNA)、馬場兼伸氏('01年度若色研修生、メジロスタジオ)、山中新太郎助教、司会に田所辰之助短大准教授を迎えたシンポジウムも開催(<http://tkmy.net/u41/>)。

■科学技術史料センター(CSTMUSEUM)で開催されていた第4回特別展「空間と構造の交差点」が、6月30日に165日間の会期を終了した。来場者は1,245名。

**駿建目次**

2008年7月号 Vol.36 No.2 通巻149号

表紙「くまもとアートポリス  
熊本駅西口駅前広場設計競技案」  
設計：佐藤光彦建築設計事務所

駿河台校舎・再生5号館	2	平成20年度 短期大学部建設学科	
ふたつのコンベについて	8	オリエンテーション報告	16
平成19年度 建築学科就職状況	10	新任非常勤講師紹介	17
2008年 関西研修旅行報告	14	教室ぶろむなード	20

**高安重一 先生**  
(ベーシック建築  
デザイン,  
建築デザイン I)



4連の家



**略歴**

1989年 東京理科大学理工学部建築学科卒業  
1990~95年 東京理科大学助手  
1995年 建築研究室高安重一事務所設立  
2003年 (有)アーキテクチャー・ラボ代表取締役

助手の頃、設計がうまくなるには？と設計の思考プロセスを研究していた。何人もの建築家に同じ課題を依頼してエスキスを記録させてもらったが、テーブル一つの設計でも恐ろしくたくさんの判断を積み重ねながら最終形が現れてくる。どれほど多くの設計者に同じ課題を行っても同じデザインにはならない。となると、いま何をすべきか？という判断を自分の基準で的確に行い続けることが重要なのだと思う。そして私たちは大工さんではないから自分で建築を作れないので、その判断の集積を人に伝える術を身につけないと建築がスタートしないことも忘れないで欲しい。  
(たかやすしげかす)

■三橋博巳教授が、第7代日本不動産学会会長に就任した。任期は5月から2年間。  
■「2008年度第17回東京都学生卒業設計コンクール」(主催：日本建築家協会関東甲信越支部)において、池田琢氏('07年度横河研卒業、慶應大学大学院)が「アキバケイ 184の筒をくり抜く149の巢穴」にて金賞を、古澤修一君(今村研 M1)が「新宿菌糸の集合住宅」で金箱賞(審査委員特別賞)を受賞した。



アキバケイ

■吉野涼二氏(大成建設技術センター)、井上勝夫教授、三枝健二准教授(電子情報工学科)共著の原著論文「スリット状開口構造を対象とした漏洩電磁波の基本的性状の把握と数値解析による検討 板状電磁シールド材料間スリット状接続部の電磁シールド性能に関する研究 その1」が、日本建築学会環境系論文集 No.623(2008年1月)に掲載された。  
■星和磨短大助手、羽入敏樹短大准教授、関口克明教授共著の原著論文「室形状の周波数別自動生成を組み込んだ音線法に

**教室ぶろむな一ど**

よる音響シミュレーション」が日本建築学会環境系論文集 No.625(2008年3月号)に掲載された。

■阿部今日子さん(井上研 D2, 日本 ERI)、井上勝夫教授共著の技術報告「住宅性能表示制度と集合住宅の音環境に関する居住者・供給者の意識調査」が、日本建築学会技術報告集第27号(2008年6月)に掲載された。

■富田隆太助教、井上勝夫教授、伊東和君(井上研 M2)共著の技術報告「人の動作とゴムボール衝撃時の床振動応答加速度に関する実験的検討」が、日本建築学会技術報告集第27号(2008年6月)に掲載された。

■半貴敏夫教授は、6月1~5日にウィスラー(カナダ)で開催された国際会議「Snow Engineering IV」で副議長を務め、「Studies on Snow Accumulation around Buildings with Pilotis in Drifting Flow」と題する論文を発表した。

■短大建設学科が推進母体となった文科省特別補助国際学術交流プログラム「地域・大学間の連携による日中共同教育開

発プログラム」が、劉加平教授、楊柳教授、王怡教授、肖勇強講師(以上、西安建築科技大学)、劉涛助教(中国陝西省商洛学院)らの来日(2~4月)をもって終了し、日中共同研究のみならず、FDに関係した授業参観の実施など、積極的な国際学術交流が展開された。

■「付属高校生のための CST オープンカレッジ」が、6月8日に駿河台キャンパスで開催された。付属高校の生徒を対象としたイベントで、中田善久准教授、八藤後猛専任講師によるミニ講義が行われ、多くの付属高校生が来場した。

■「U41@NU 40歳以下の日大出身建築家展」(主催：桜門建築会)が、6月17~28日に CST ギャラリーで開催された。これからの活躍が期待される日本大学出身の40歳以下の建築家たち12組13人に注目し、彼らの代表作を写真や模型によって紹介したもの。26日には、講演者に鍋島千恵氏(生産工学部卒業、TNA)、馬場兼伸氏('01年度若色研修了、メジロスタジオ)、山中新太郎助教、司会に田所辰之助短大准教授を迎えたシンポジウムも開催(<http://tkmy.net/u41/>)。

■科学技術史料センター(CST MUSEUM)で開催されていた第4回特別展「空間と構造の交差点」が、6月30日に165日間の会期を終了した。来場者は1,245名。

**駿建目次**

2008年7月号 Vol.36 No.2 通巻149号

表紙「くまもとアートポリス  
熊本駅西口駅前広場設計競技案」  
設計：佐藤光彦建築設計事務所

駿河台校舎・再生5号館	2	平成20年度 短期大学部建設学科	
ふたつのコンベについて	8	オリエンテーション報告	16
平成19年度 建築学科就職状況	10	新任非常勤講師紹介	17
2008年 関西研修旅行報告	14	教室ぶろむな一ど	20